

熊本県湯前町
町勢要覧

わたしのふるさと、
湯前町——



DEN-EN

【ふるさとであり続ける】

マイホーム タウン ゆのまえ

のどかな田園風景が広がる

山のふもとの小さな町。

自然も文化も人も、

すべてが湯前の「宝物」。

私たちのふるさとは

いつまでも変わらない。

ほっこり、そしてあたたかな

場所であり続けます。



もくじ

- 2 マイホームタウンゆのまえ
- 4 自然とともに暮らす
- 6 受け継がれるまんの魂
- 10 伝統と情熱
- 12 打ち鍛え研ぎ澄まされし昔ながらがいい
- 14 自然の恵みに生かされて
- 16 ゆっくりのんびり楽しんで心洗われるひと時
- 18 あふれる子どもの笑い声
- 20 みんなが生き生き輝くまち
- 22 安全な暮らしを守るために
- 24 幸せを感じられるまちへ
- 26 町の象徴・アクセスほか
- 28





町指定文化財「下町橋」



【まちの風景】

自然と
ともに
暮らす

「ビーチユルチー」

「チーチヨイチーチヨイ」

春の訪れを伝えるメジロ、初夏の夜を幻想的に照らすホタル。ウメや桜、秋には紅葉。球磨盆地の東端に位置し、九州山地に囲まれた湯前町は四季折々に表情を変化させます。

まちに流れるのは日本三大急流の一つである球磨川。霊峰市房から流れ出す清流は田畑を潤わせ、川魚や動物、昆虫などの命をはぐくむなど、さまざまな恩恵をもたらします。

人と自然の調和。湯前町では一年中「旬」を楽しみながら暮らせます。





「まんがのまち」

受け継がれる まんがの魂



デジタルアーカイブ活用事業

湯前まんが美術館に所蔵している那須良輔の作品をデジタル化して、管理・保存（アーカイブ化）を行ったデータをインターネットなどで世界に広めています。

湯前町出身の漫画家、故・那須良輔の記念館として平成4年に「湯前まんが美術館」を建設。国内でも早い時期からまんがを核としたまちづくりに取り組んできました。

「那須良輔風刺漫画大賞」や「ゆのまえ漫画フェスタ」など、まんがのまちを全国にアピール。小中学校でのまんが授業、現役漫画家によるまんが教室、那須良輔作品の保存活用など、あらゆる面でまんが文化を受け継いでいます。

中でも、ゆのまえ漫画フェスタは全国からのまんが・アニメファンで大にぎわい。アニソンライブや漫画家のトークショー、サイン会だけでなく、会場周辺では大人も子どもも関係なくコスプレ姿で特別な一日を楽しみます。

まんが文化の根源



湯前まんが美術館

那須良輔の作品を保存・展示し「まんが」をテーマとした美術館として建設しました。近年ではまんがに関連美術館の老舗となっています。人気作品の原画展やアニメなどの特別企画展も定期的で開催し、人気を博しています。



那須良輔 (1913～1989)

大正2年湯前村(現湯前町)生まれ。昭和8年デビュー以来、日本漫画界の重鎮として活躍。戦後に似顔絵の風刺漫画を長期にわたり連載し、偉大な足跡を残しました。那須良輔の偉業をさらに広めるため、令和3年度にはその一生を漫画化しました。



小中学生のまんが授業

崇城大学(熊本市)芸術学部デザイン学科の協力のもと、小中学校の授業のカリキュラムとして、漫画の歴史や技法、道具について学び、漫画家のアシスタント体験などを行っています。



3000冊が並ぶまんが図書館

湯前駅向かいの「湯前駅レールウイング複合施設」内にある湯前まんが図書館では、最新作から定番作まで3000冊を超えるまんがが本を展示しており、無料で自由に読むことができます。



現役漫画家が教えるまんが教室

熊本県芦北町在住の漫画家、村枝賢一さん(代表作:「仮面ライダー スピリッツ」など)と妻で漫画家の森真理さん(代表作:「銀のしっぽ」など)を講師として迎え、プロの技を学ぶ教室を開催しています。



那須良輔風刺漫画大賞

那須良輔の偉業を記念して平成4年から始まった、風刺漫画を対象としたコンテストです。政治や国際問題から日常の話題までテーマは自由。毎年全国からクスッと笑える作品が数多く応募されます。



「ゆのまえ漫画フェスタ」

大人だって 子どもだって

漫画でいっぱいの特別な一日。

ゆのまえ漫画フェスタは

素敵なお笑顔であふれています——





有限会社 林酒造場

蔵を守る15代目のこだわりは先代から継承してきた焼酎造りを愚直に守ること。江戸中期に創業し、米の豊かな風味を生かした味わい深い焼酎を造っている。代表銘柄「極楽」のラベルには「適飲保健」の文字。人の心を優しくなでてくれるような焼酎を目指して気持ちを込めて仕込んでいる。極楽の特徴は後を引くうまみ。その香りは湯前の風情や人間を思い浮かべるような懐かしさがある。

【球磨焼酎】

伝統と情熱

人吉球磨は有数の米どころ。美しい山々から流れる水で造られるのが米焼酎を代表する「球磨焼酎」。芳醇な香りと深いコクが特徴です。

球磨焼酎の始まりは今から約500年前。焼酎造りにかける情熱は現代の杜氏たちに受け継がれ、一心においしさを追及し続けています。

球磨焼酎は国税庁の「地理的表示の産地指定」を受け、コニヤックやポルドーワインと同じく、地名を冠することが認められています。

湯前町にも伝統のある2つの蔵元があります。令和3年にフランスで開催された焼酎・日本酒のコンペティション「Kura Master2021」で「極楽しず馴」(林酒造場)と「常庄豊永蔵」(豊永酒造)の両銘柄が最高賞であるプラチナ賞を受賞するなど、国内だけでなく世界中ですばらしい評価を受けています。



合名会社 豊永酒造

明治27年に創業。原料からこだわり「球磨の米・球磨の水・球磨の人」で地域の風土、文化に根ざした焼酎を造る。創業当時から自社田を持ち、自分たちで作った米で仕込みを行ってきた。持続可能な農業と醸造業を目指し、代表銘柄「豊永蔵」をはじめ、有機焼酎は地元の有機JAS認定の米のみを使用している。「常庄豊永蔵」は常庄ならではのコクと香ばしい香り、柔らかな味わいが特徴で、食との相性がとてもよく、食事を邪魔せず飽きない味となっている。



昔ながらの酒器

「ガラ」と「チヨク」は球磨焼酎伝統の酒器です。焼酎が一般庶民の飲み物となった明治時代、球磨焼酎は原酒で45度ほどあったと言われています。「ガラ」に球磨焼酎を前割りして入れ、そのまま火にかけ、それを一口分しか入らない小さな器の「チヨク」で飲みます。



昔、焼酎は枡ますで量って二合五勺しごうごすくが一盃ばいと呼ばれていました。そのため、「ガラ」はちょうど「二合五勺」が入るように作られています。





【伝統刃物】

打ち鍛え 研ぎ澄ま されし

人吉球磨の伝統刃物は、鎌倉時代に遠州(静岡県)から来た相良氏が、独特の鍛冶技術を編み出させたのが始まりといわれています。この地域では林業が盛んなため「球磨鎌」で知られる造林鎌をはじめ、斧や鉋などが主な生産品でした。山林用道具を作り続ける中で、職人たちの手打ち刃物の技術が高められてきました。

林業の機械化が進むにつれて山林用道具の需要は少なくなり、現在は包丁などの刃物を中心にレジャー用のナイフや農具など、100種類以上の刃物が作られています。

使う人の手の大きさや形、使い道に合うように、刃物の重さや長さ、厚さをミリ単位で合わせる職人技。全国の宮大工や造園業の職人がリピーターとなっていて、一人一人に合わせた作られた刃物の使いやすさと切れ味は折り紙つきです。





【野菜のみそ漬け】

昔ながらがいい

野菜のみそ漬けは昔、どの家庭でも食卓に上がる地域食文化のひとつでした。その野菜のみそ漬けを「市房漬」という商品にし、地域ブランド表示基準制度「本場の本物」に認定されるまでに育て上げたのが下村婦人会市房漬加工組合です。

下村婦人会は第2次世界大戦後、経済的に厳しい生活状況の中、互いに支えあって生活を向上させるために女性たちが集まったことが始まりです。婦人会で大豆や麦を持ち寄って、みそを造り、なすとしょうがを漬けて込んでできあがったのが市房漬。60年以上前から地元野菜を使って漬物を作り、自ら販売するという6次産業化が行われています。

市房漬の名前は「ふるさとを離れて都市部に移った若者たちに、ふるさとを思い出してほしい、ふるさとからいつも見える市房山と一緒に」という思いからつけられました。トレードマークである白い割烹着と安全・安心な食べ物を作るという気持ちは今も変わりません。一つ一つが保存料も添加物も使わずに作り上げられた、湯前の母の味です。





【農業・林業】

自然の恵みに 生かされて



地域のローカル線「くま川鉄道」の沿線に広がる田園風景。初夏には水田が鏡面のように青空を映し出し、秋にはたわわに実った稲が金色の絨毯のよう。美しい農村の風景は見る人の心を和ませてくれます。

水稲を中心にメロンやキュウリ、イチゴなどの野菜、ブドウやクリといった果樹、畜産。湯前町には自然のうま味がぎゅっしり詰まった、おいしい農畜産物がたくさんあります。

機械や施設の導入支援などで経営基盤の強化を図ったり、新規就農者や後継者を積極的に支援したりすることで、農業の持続的発展を進めています。





▲2020 オリンピック・パラリンピック東京大会の遺産
東京五輪の選手村建設に利用された熊本県産材のことを「レガシー材」といい、湯前町で加工された木材も使われました。役目を終えた木材は町に戻り、提供に関わった児童らの一生の記念になりました。



環境と産業の調和

まちの総面積の約7割を占める森林。木材などの目に見えるものだけでなく、二酸化炭素の吸収や土砂流出の防止も森林の恵みの一つです。林業は農業と並ぶ、まちの基幹産業です。近年では奥球磨地域一体となって「球磨スギ・ヒノキ」のブランド化に取り組み、全国に出荷。これらの木材製品は「2020オリンピック・パラリンピック東京大会」の関

連施設に使用されました。大型施設や一般住宅など、さまざまな建物にも使われています。

豊かな森をつくるためには日ごろからの手入れが欠かせません。湯前町は「協働の森づくり」として企業と協定を結び、10年以上ともに保全活動を続けていて、現在では4社と協定を結んでいます。環境と産業が調和し、多様な生き物と共生できる、豊かな森づくりを目指して積極的に活動しています。



【観光】

ゆっくり

のんびり

楽しんで

時間の流れを楽しむ

湯前町では自然や文化などに触れることで、都会の忙しさの中では味わうことのできない「癒し」を体験できます。

温泉宿泊施設「ゆのまえ温泉湯楽里」は泉質がやわらかい天然温泉が自慢。海から遠く離れた山間部でありながら、塩分を含んだ潮湯しほゆが湧き出る全国でも珍しい温泉です。地元の木材をふんだんに使ったコテージなどもあり、家族や友人とバーベキューを楽しみながら、のんびりと時間を満喫することもできます。

ファミリーでにぎわう広場

湯楽里に隣接する「ゆのまえグリーンパレス」には自然に囲まれたキャンプ場を完備。近年のキャンプブームで利用者が増えています。ゴーカートやパターゴルフ、草スキーができる芝生広場などもあり、大人も子どもも楽しめるレジャー施設となっています。ファミリーキャンプに人気で、週末は多くの家族連れでにぎわっています。

▶観光案内所と観光案内人

湯〜とぴあ内には観光案内所があり、おすすめのスポットなどを気軽に聞くことができます。観光案内人をお願いすると、滞在時間や行きたい場所、予算に合わせておすすめのコースをガイドしてくれます(要予約)。案内所にはレンタル自転車もあり、自転車に乗って穏やかなまちの雰囲気を味わうことができます。



歩いてエンジョイ

もう一つの観光スポットは湯前駅周辺です。レトロな雰囲気を残す駅舎のとなりには観光案内所と物産館、音楽スタジオが一緒になった「湯〜とぴあ」があります。物産館では採れたてで新鮮な野菜や果物、工芸品・名菓など町の特産品を販売しています。

線路の向かい側には「湯前駅レールウイング」があります。カフェやまんが図書館、展示体験スペースを備えた開放的な空間が魅力で、マルシェなどのイベントも定期的に開かれています。

駅周辺は飲食店や製菓店などが歩いて回れるほど集まっているので、のんびりとした町の雰囲気を感じながら、おいしい食べ物を食べることもできます。

心洗われれるひと時



阿弥陀如来坐像(城泉寺)



城泉寺(浄心寺)

小説家・司馬遼太郎が著書「街道をゆく」の中で「日本で最も豊かな隠れ里」と称した人吉球磨。文化財そのものだけでなく、その歴史と文化の物語が平成27年に「日本遺産」として文化庁に認定されました。建物や仏像をはじめ、湯前町にも多くの歴史や文化が残っています。大人だけでなく、中学生が授業で伝統芸能を学ぶなどして、地域全体で大切に守り継いでいます。歴史そのものを語るために重要である、有形・無形の遺産が日常に溶け込む風景。訪れる人々に癒しと感動を与え、心を洗い流してくれます。

城泉寺(浄心寺)

城泉寺は鎌倉時代初期に創建され、県内最古の木造建築として国の重要文化財に指定されています。堂内の阿弥陀如来坐像と両脇侍像、境内の七重石塔、九重石塔も国重要文化財になっています。鎌倉時代の仏教文化を象徴する建物といわれ、寄せ棟造りの茅葺き屋根が優美な曲線を描き、見る人の気持ちを落ち着かせます。





市房山神宮里宮神社

創建は昭和9年ですが、その由緒は16世紀にさかのぼります。春秋の大祭では、町内を神輿が練り歩き、球磨神楽や臼太鼓踊り、棒踊りといった伝統芸能が奉納されます。



潮神社

「おっぱい神社」として町の人たちから親しまれています。乳房をかたどったものを奉納すると母乳の出が良くなると伝えられていて、子宝や安産などの祈願がなされます。



普門寺観音

人吉球磨地域に点在する相良三十三観音の25番礼所となっています。春と秋の彼岸の時期には一斉に開帳し、内外から相良三十三観音をめぐる多くの人が訪れます。



球磨神楽

採物舞(とりものまい)という古風な舞が特徴で、仮面は使わず、順・逆順に回って足拍子を軽快に踏みます。人吉球磨地域にのみ伝承される神秘的な神楽です。



浅鹿野棒踊り

鹿児島より伝来したものとされていて、熊本県南部に広く分布する風流系の棒踊りです。棒と鎌を持った総勢18人が三味線・太鼓・笛・唄に合わせて踊ります。



東方太鼓踊り

平家の落人達が昔をしのび、再興の念に燃えて踊ったことが起源とされ、球磨地方に数多く残る臼太鼓踊りの中で最も勇壮であると言われています。

【子育て】
あふれる
子ども
の
笑い
声



1 / 子育てサークルで水遊び 2 / かわいいわが子の撮影会
3 / 苗植えの共同作業であふれる笑顔 4 / 学童クラブで楽しく勉強

湯前の子育て支援 ※主なもの

【0歳～6歳】

- ・ 出生祝い金 ・ 保健師の赤ちゃん訪問
- ・ 多子子育て世帯の保育料軽減
- ・ チャイルドシート、ベビーカー貸し出し
- ・ 病児・病後児保育

【0歳～18歳】

- ・ こども医療費助成

【小学生～中学生】

- ・ 特別支援教育体制の充実 ・ 修学旅行補助
- ・ 給食費補助 ・ 入学祝い金 ・ 英語検定料補助

【高校生など】

- ・ 通学定期費用補助 ・ 奨学金 ・ 入学準備金



6



5

5/ 慈光こども園
6/ 湯前保育園

子どもはまちの希望であり、未来をつくるかけがえのない存在です。湯前町では子どもを安心して産み育てることができるように子育て家庭を地域で支えています。

登下校の見守りや花壇づくりなどの交流で住民との絆を深め、子どもたちも安心感が芽生えています。子育てに悩むときは、健診などで保健師や管理栄養士に相談することができ、成長と特性に合わせた助言を受けられます。

さまざまな家庭環境に対応し、子どもが健やかに育つように家庭・地域・学校で協力しながら応援しています。



【福祉・社会教育・社会体育】

みんなが 生き生き 輝くまち

湯前町の人口の約45%が65歳以上の高齢者。多くの人が「いきいき百歳体操」や生涯学習などで生きがいを持って活動しています。特に「いきいき百歳体操」は公民分館など26カ所で行われ、交流の場にもなっています。体だけでなく、心もいきいきすることが町民の健康の秘訣です。交流の場はほかにもあります。例えば、子どもから大人まで町民みんなでにぎわう体育祭や文化祭、年齢や性別を超えてみんなが協力し、笑い合うことで絆が深まっています。

青年団や地域婦人会などの団体も積極的にまちづくりやボランティアに参加。仲間と懸命に活動する姿は、まさに元気を与えています。

※SUPやカヌーをはじめとする多くの自然体験活動や幼児から高齢者まで参加できる、さまざまな運動クラブなど体育活動も盛んです。自分のペースで家族や友人と活動を楽しんだり、競技として真剣に打ち込んだりして、はつらつと輝いています。

※SUP：スタンドアップパドルボードの略。大きめのボードの上に立ち、パドルを漕いで水面を進むスポーツ



企業と連携した運動教室



スポーツ機会の減少や健康寿命の延伸などの課題を解決するために、全国でフィットネスクラブなどを展開する(株)ルネサンスと令和3年6月に協定を結びました。「健康のまちづくり」を目的に健康指導や親子運動教室をはじめ、さまざまな世代や目的に合わせた体づくりや運動を核としたコミュニティづくりを行っています。

湯前×ルネサンス

頼みやすく頼まれやすい



令和2年4月に活動を始めた有償ボランティアグループ、ゆのまちょっとボランティア「ささえあい」(通称:ちょこボラ)。誰にだってある日常のちょっとした困りごとを協力会員がサポート。買い物代行や部屋の掃除、リサイクル品の搬出など簡単な作業を頼むことができます。ささいなことだからこそ頼みにくい、そんな悩みに寄り添います。

ちょっとボランティア



湯前町は熊本地震や令和2年7月豪雨を経験しました。特に令和2年7月豪雨は観測史上1位の雨量を記録。幸いにも死者は出なかったものの、水路の氾らんや土砂崩れなどで各所に甚大な被害が発生しました。通信障害や「くま川鉄道」の全線運行休止など生活インフラにも大きな影響が生じ、歴史的な大災害となりました。

消防団員は町民の生命・身体・財産を守るため、危険箇所や器具の点検をはじめ、火災や災害に備えて、さまざまな訓練に励んでいます。平成30年にはポンプの操作技術を競う「ポンプ操法大会」で全国大会に出場するほど、団員は高い技術を身に付けています。大災害に備えるために3年に一度、まち全体で防災訓練を行います。自主防災組織と連携し、避難誘導や情報伝達方法の確認、防災資機材の使い方などを学ぶなど、一丸となって防災力を高めています。

近年多発している大災害に備え、防災力の強化にも取り組んでいます。災害発生直後、道路の開通など迅速に対応するため、油圧ショベルなどの重機を「B&G財団」の協力を得て配備しました。配備した重機などを安全に・効率的に活用するため、消防団員や上球磨消防組合職員、町職員が必要な講習や研修を受けています。町民が安心・安全に暮らせるように、消防団を中心として、さまざまな訓練などで、まち全体の防災に対する意識を高めています。

※1：令和3年11月から一部区間で運行を再開しています

※2：公益財団法人 ブルーシー・アンド・グリーンランド財団



【防災・消防】

安全な暮らしを
守るために



【町議会構成】

▼常任委員会	
企画経済建設	総務厚生文教
森山宏 金子光喜 山下力	味岡恭 副委員長 遠坂道太 委員長 西靖邦 黒木龍次 倉本豊 吉田精二 副委員長 椎葉弘樹 委員長
▼その他	
森山宏 【上球磨消防組合議員】	【議会選出監査委員】 金子光喜、椎葉弘樹、遠坂道太 森山宏 副委員長 黒木龍次 委員長 【議会運営委員会】 黒木龍次 委員長 森山宏 副委員長 金子光喜、椎葉弘樹、遠坂道太 吉田精二 【人吉球磨広域行政組合議員】 椎葉弘樹、西靖邦 【公立多良木病院企業団議員】 金子光喜、遠坂道太



金子 光喜 副議長



倉本 豊 議長

【議会・行政】

幸 せ を 感 じ ら
れ る ま ち へ

町民の代表として選ばれた議員で組織する町議会、年4回の定例会と必要に応じて開かれる臨時会で、町長から提案された予算や方針などの重要事項を審議・決定します。議員の定数は10人。任期は4年間です。「町民に開かれた議会運営」を目指し、議会だよりの発行やオンライン配信などに力を入れています。

町議会は町長と対等な立場で、町政が適正に行われているか監視をしながら町民の声を行政に届けます。より良いまちづくりの実現には町議会の存在が不可欠です。



常任委員会で森林整備の状況を視察

町長あいさつ

湯前町は「自然・歴史・文化」それぞれに特別な魅力を持っています。それらが町民の皆さんの生活に深く根を下ろし、大事に受け継がれてきたことで今の湯前町があります。

しかし、令和2年7月豪雨では、これまで経験したことのない甚大な被害を受け、私たちの生活も大きく変化しました。現在、町民の皆さんが安心して暮らすことのできる日常を取り戻すため、懸命に復旧・復興へ取り組んでいるところです。

まちづくりの将来像に掲げている「マイホームタウンゆのまえ」。住

む人はもちろん、訪れる人にとっても「ふるさと」として心のよりどころであり続けることを目指し、まい進しています。

緑豊かな山並み・澄みきった空気・恵み豊かな水・城泉寺や八勝寺などの文化財。自然・歴史・中世文化の香りがただよ「湯前町」。私はこの町で生まれ育ったことを誇りに思います。

町勢要覧を読んでもくださった皆さんに、湯前町を愛していただけることを心から願っています。

湯前町長 長谷 和人



左：まちと人をつなぐ「広報湯前」

町民の活躍やまちのできごとなど、さまざまな情報を毎月1回全世帯に届けています。紙面にはたくさんの方々の笑顔が満載です。

右：LINEを使った情報発信

イベント情報や休日当番医など必要な情報をスマートフォンでお知らせします。



ともに歩む

「町民とともに歩むまち」を目指して、誰もがまちづくりに参加しやすい環境づくりに努めています。町の指針となる計画は町民の意見を取り入れながら作り、広報紙やホームページ、SNSなど、さまざまなツールを使って幅広い世代に施策やサービ、イベントなどの情報を発信しています。

豪雨災害からの復旧・復興や新型コロナウイルス感染症の影響などで厳しい財政状況が続いています。限られた財源で最大の効果を生み出す効率的な行財政を運営することで「町民一人一人が夢と誇りをもって幸せを感じられるまち」の実現を目指します。



まちの象徴



《町章》

湯前町の「ユ」の字を図案化したもので、中央の切り抜きは貫流する球磨川と終着駅の鉄道の意を表し「融和」「団結」「発展」を単純明快に象徴したものです。

《町鳥》



《町花》



《町木》



アクセス



- ▶熊本市 → 約 2 時間
- ▶阿蘇くまもと空港 → 約 2 時間
- ▶鹿児島空港 → 約 1 時間 30 分
- ▶九州自動車道人吉 IC → 約 40 分

情報発信

湯前町ホームページ
<https://www.town.yunomae.lg.jp/>



公式 LINE
<https://lin.ee/DrDu36>



公式Instagram
https://www.instagram.com/accounts/login/?next=/town_yunomae/



地域おこし協力隊Instagram
https://www.instagram.com/accounts/login/?next=/town_yunomae/



町のホームページからは観光・移住定住情報サイト「ゆのまえかじり」や湯前まんが美術館などのサイトにもアクセスできます。

ゆるキャラ



ゆっくん

湯前町の公式イメージキャラクターです。営業部長として、町のPRや観光客のおもてなしなどを頑張っています。



ゆのまえさん

非公式のキャラクターですが、そのシュールな姿に隠れファンが多くいます。運がよければ町で見かけることができるかも。

—町民憲章—

一、健康で、心豊かな

まちをつくりましょう

一、平和・勤勉・明朗な

まちをつくりましょう

一、自然を、人を、郷土を愛する

まちをつくりましょう

一、活力があり、未来がある

まちをつくりましょう

一、先人に学び、文化を継承する

まちをつくりましょう

また来るねって、
言えるまち——



発行：熊本県湯前町

発行年月：令和4年3月

〒868-0621 熊本県球磨郡湯前町1989-1

☎0966(43)4111

Mail：kikakushinkou@yunomae.kumamoto.jp